

庄内中高一貫校(仮称)教育基本計画に係る保護者等説明会【酒田市会場】記録(要旨)

- 1 日 時 令和2年10月16日(金) 午後6時30分から午後8時まで
- 2 場 所 酒田市総合文化センター(酒田市中心西町2番59号)
- 3 出席者 地域の方々 78名
県教委 片桐教育次長、生島高校改革推進室長、奥山高校改革推進室長補佐
丹野高校改革主査、佐藤高校改革主査、安達高校改革主査
- 4 内 容 生島室長から説明後、質疑応答

5 質疑応答の概要

(質問・意見)

併設型高校の理数科への進学について、併設型中学校からは入学者選抜を経ずに進学することになり、99名の多くが理数科を希望した場合、どのようになるのか。

(県教委)

全国的な傾向として、併設型中学校で学んだ生徒の約半数程度が、理系や理数科に進んでいる。庄内中高一貫校(仮称)の場合、併設型中学校の生徒99名のすべてが理数科に進むことはないと予想しているが、どのような制度設計にするか、現在検討しているところである。

(質問・意見)

教育基本計画策定委員会について、鶴岡市教育委員会からメンバーが入っているが、酒田市教育委員会からは入っていない。今後の進め方として、教育基本計画にも、庄内地区の教育資源を有効に活用するとする趣旨があることから、庄内5市町の教育委員会との連携を大切にしていく必要があると思われるがどうか。

(県教委)

教育基本計画策定委員会には、学校の設置場所が鶴岡市であることから、鶴岡市から協力をしていただいた。中学校の校長としては、鶴岡市と酒田市から入ってもらい、庄内地区全域をカバーする意味で、庄内教育事務所長からも入ってもらったところである。また、策定委員会の検討にあたり、適宜、庄内地区の自治体を訪問し、意見を伺いながら進めてきた。その他にも、庄内地区内外の有識者の方々の御意見及び先進校視察で得た情報等を参考に検討してきたところである。今後も、庄内ならではの強みを生かした学校づくりを進めるために、庄内地区の各教育委員会と連携しながら開校準備を進めていく。なお、次年度以降も地域の方々への説明会を実施し、多くの方々から意見をいただく予定であり、各地区、各学校PTAや校長会等においても要望があれば、個別に説明に伺い、意見をいただきたいと思います。

(質問・意見)

- ① 中学校入学者選抜の受検料はいくらになるのか。
- ② 併設型中学校から別の高校を受検し不合格となった場合、併設型高校に戻って入学することは可能か。
- ③ 高校の入学段階において、併設型中学校からの入学者と、市町村立中学校からの入学者の学力差をどのようにうめていくのか。

(県教委)

- ① 中学校入学者選抜では、受検料はないが、入学者選抜手数料として山形県収入証紙で2,200円を入学願書に貼付することになっている。
- ② 高校の入学定員の設定にあたっては、併設型中学校から別の高校を受検する生徒の数等も含めて、予め設定することになっており、他校を受検し不合格であった場合には、戻ってくることはできない。
- ③ 高校の入学段階では、学力差とともに、学習の進度差への対応が求められると認識しており、現在検討中であるが、二つの方法があるのではないかとと思われる。1つ目は、東桜学館高校のように、高校1年次だけHR教室を併設型中学校からの進学者と市町村立中学校からの進学者とに分ける方法である。2つ目は、他県の事例として、HR教室は混合であるものの、教科によって習熟度に応じたクラス分けして授業を進める方法がある。

(質問・意見)

通学について、酒田市からのスクールバスはあるのか。

(県教委)

スクールバスについては、御意見として頂戴する。現在のところ、県立高校及び中学校においては、スクールバスの運行をしていない。県がスクールバスを運行する場合の課題として、通学区域が広域になることからどの地区にも公平に制度設計することが難しいこと、特定の高校に導入した場合その高校が有利となることから県内一斉に導入しなければならないこと、また、そうした場合の民間業者への圧迫などが挙げられる。

(質問・意見)

- ① 庄内中高一貫校（仮称）の偏差値はどのようになると考えているのか。
- ② 中学校の入学者選抜において、小学5・6年生の評定が合否の判断材料としてあるようであるが、小学5年の段階で入学の意思を固める必要があるということか。

(県教委)

- ① 偏差値という考え方で学校づくりをしていないことを御理解いただきたい。生徒集団としては、鶴岡南高校と鶴岡北高校の統合校であることから、そのような生徒が集まってくるものと予想される。6年間の継続的・計画的な教育活動による個性の伸長、個別最適な学びによる進路実現等、学校の特色を理解した上で、この学校を目指してほしい。
- ② 東桜学館中学校の場合、6年生から目指す児童もいるようである。なお、東桜学館の開

校前、どのようなことを頑張れればよいかという質問に対しては、例えば、「授業にしっかり取り組むこと」「学校生活や家庭での生活、地域の行事などに積極的に取り組むこと」「読書に親しむこと」「疑問に思ったら、辞書や地図などで調べてみること」「会話を大切にすること」「家での手伝いなど、いろいろな体験をさせること」などと回答してきたところである。

(質問・意見)

- ① 移行期の鶴岡南高校と鶴岡北高校の定員は、現在の定員と同じと考えて良いか。
- ② 統合時、高校2・3年生はそれぞれの高校から来たかによって学力差があると思われるが、学級編制等、どのように対応していくことを考えているか。

(県教委)

- ① 現在の定員が維持され、鶴岡南高校 200 名、鶴岡北高校 120 名の定員となる。
- ② 現在、移行期の対応を具体的に検討しているところである。どちらかの高校に入ったことによって、統合時に不公平が無いような仕組みを整えていく。統合時の学級編制については、混合とするか否か、本県の酒田光陵高校や村山産業高校といった先行事例や近年統合を予定している他県の事例を参考にしながら検討を進めていき、早めにアナウンスしていきたい。

(質問・意見)

中学校を受検し合格した場合でも、入学を辞退することはできるのか。

(県教委)

合格後に様々な状況の変化があり、入学を辞退することも考えられる。ただし、このことに関しては、入学者選抜において残念ながら入学できなかった児童の心情も考えてほしいところである。また、6年間の継続的・計画的な教育活動により個性の伸長を図る中高一貫教育の趣旨を理解した上で、受検をしてほしい。

(質問・意見)

- ① 制服について、変更等の時期など、どのようになるのか。
- ② 移行期の部活動は、どのように活動していくのか。

(県教委)

- ① 制服については、制服を採用するかどうかから検討していく。制服を採用する場合には、生徒や保護者を含めて多くの方々から意見を参考し、LGBT の視点等も踏まえてデザインを検討し、変更時期を移行期からとするか、開校時からとするのかなど、先行事例である酒田光陵高校や村山産業高校のケースを参考にしながら検討していく。
- ② 基本は、それぞれの高校で設置されている部活動で活動することになる。統合が決まった高校には、合同チームといった特例が適用される場合もある。部活動は、原則単年度登録であることも踏まえ、今後、移行期と統合時の部活動のより良い在り方を検討していく。

以上